

卒業生K12 回岩井洋子さんから 絵画の寄贈がありました！！

8月中旬、東京に住んでいるK12回生の岩井洋子さんから絵の寄贈があり、早速、ホールそば遺愛アリーナ出入り口の向いの壁に展示しています。題は『マイペース・風花』です。岩井さんに、どのような思いをもってこの作品を描いたのかを書いていただいたので紹介いたします。

…「愛と哀しみのボレロ」という映画があります。映画の終盤でラヴェルのボレロをジョルジュ・ドンが踊ります。感動的なクライマックスです。この映画は第2次世界大戦をはさんで音楽やダンスに関わった家族の物語です。ベジャール二十世紀バレエ団のスターダンサーのドンは日本でもボレロを踊っています。私は幸運にも前列4番目の席から観ることができました。今から30年以上も前のことですが、あの感動は忘れることができません。音楽に人は感動します。くりかえすリズムやメロディには、特に心を揺さぶられます。

絵にも、くりかえす形やこちよさを表現できないかと試行錯誤の末、○の連続で描いてみようと思いました。○が置かれた背景には、北海道のイメージだったり、雪や氷風や光、そういうものを感じさせる心象風景にしたいと思いました。ほとんどの私の作品の題名には「マイスペース」としてあります。私の頭の中の記憶が素になっているからです。寄贈させて頂いた作品は一度描きなおしました。ちいさな野の花をかきたし、○も全体のバランスをみながら消したり、見え隠れする○や、しっぺりした○など、こちよい着地点を探ることを楽しみました。

けっこう長い人生、いろいろ大変な事もありましたが…絵だけは楽しく美しく、自分自身の感性を信じて、心を満たしてくれる作品を作り続けたいとの思いだけです。何か大きな見守りがあったようです。感じていました。感謝です。



若い可能性に満ちた生徒さんたちへ
ボレロを踊ったジョルジュ・ドンの言葉です。
「限界とは、自分がどこに置くかで決まるもの、毎日新たに生まれかわり、あらゆるものに心を開き、変化を受け入れる姿勢でいなければいけない。」…

画家に、描いた絵のモチーフを尋ねることは失礼な事なのかもしれませんが、あえてお願いしました。でも、岩井さんは嫌がらず、後輩たちへ、ジョルジュ・ドンの素敵なメッセージを添えて、書いてくださいました。感謝です。

2017年9月12日(火)